

令和7年11月11日（火曜日）

佐伯市立米水津中学校 佐藤 智子先生の授業です。

授業の単元は、第2学年「平行と合同」。平行線と折れ線の角の大きさの求め方を、補助線や根拠となる図形の性質を明らかにして説明する場面です。

導入では、前時の復習として、対頂角が等しいことや平行線の性質から同位角や錯角が等しくなることを丁寧に確認する様子が見られました。これらの考え方が本時の問題解決の手立てとなるため、大型モニターに図を提示するなどし、生徒が視覚的に理解することができるような配慮がなされていました。そして、問題を提示した後、生徒に「角度は何度になりそうか」と問い、結果の見通しをもたせるなど、生徒が主体的に取り組むための工夫がなされていました。

また、少人数のよさを生かし、生徒一人一人に問題を与え、発表をする機会を確保していました。「補助線を引く」とだけ発言した生徒に対して、佐藤先生はすぐに「どんな補助線？」と切り返すなどし、生徒が数学的な表現を用いて発表をすることができるように促していました。

事後研では、平行線の性質を用いて角の大きさを求める場面において、単に角の大きさを求めることのみで終わることなく、その過程について用いられている図形の性質や関係を明らかにして説明することが大切であり、後の証明の学習につなげることができるように配慮することが必要であることなどを確認しました。また、前時までの学習内容との関連を意識し、統合的・発展的に考えることができるようにするなど、単元など内容や時間のまとまりを見通して、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を進めることの必要性などについても確認しました。

ぜひ、今後もより深い教材研究に努めるとともに、丁寧な授業を心掛け、一人一人の生徒の資質・能力の育成に努めてほしいと思います。

